

ピアノが苦手な保育者を対象にした 保育ピアノ学習プログラムの検討

大人のピアノ研究会代表

三上 香子

はじめに

本稿は、「保育ピアノ学習者の現状と効果的なピアノ指導（１）（２）」をさらに発展させた論考である¹。前稿(1)では、現役保育者、保育者養成校の教員、街のピアノ教室の指導者にインタビュー調査を実施した。その結果、現役保育者を対象にしたピアノ学習には、無償で職員が職務に必要なスキルを身につけることができるような企業内教育としての視点と、保育現場で即時に役立つピアノ学習支援の必要性の２つの課題が示された。そこで前稿(2)では、助成金を活用した保育者支援の経験をもつ保育施設経営者と現役保育者にインタビュー調査を実施した。その結果、助成金を活用した企業内教育の可能性と、保育現場に則した具体的なピアノ学習内容を検討することの２つの方向性が示された。

本稿では、前稿（２）で示された方向性のひとつをもとに、保育現場で即時的に役立つ保育ピアノの学習プログラムを構築した。これは現役保育者が、保育をしながら独学で保育ピアノに必要な２つのスキル（園児の顔を見ながらピアノを演奏することと、演奏しやすいように楽譜を改変すること）を獲得できる特徴をもつことが期待される。

第１章では、前稿（１）（２）の調査結果の詳細を記載した。第２章では、保育ピアノの学習プログラムの具体例を示した。第３章では、このプログラムを使用した学習支援について、街のピアノ教室、Off-JT（後述）、保育者養成校を対象に記載した。

第１章 保育ピアノをめぐるこれまでの調査

筆者はこれまで、保育ピアノに関して２度のインタビュー調査を実施した。１回目の調査（第１調査とする）は、２０２０年１月２５日から２月２３日かけて行われ、２度目の調査（第２調査とする）は、２０２０年２月２１日と同

年3月4日の2日間に実施された。そこでこの章では、本論文の背景として、これまでの調査の目的、調査協力者、結果を記載する。

第1節 第1調査の目的と調査協力者と結果

第1調査では、保育ピアノの現状を知ることが目的とし、現役保育者2名（保育教諭と保育士）、保育者養成校の教員（専門学校教員と大学教員）、街のピアノ指導者（過去に保育士の指導経験をもつ者と現在保育士を指導している者）に対し、それぞれの保育ピアノに関する意見を自由に述べてもらうフリーのインタビュー調査を実施した。

その結果、ピアノが苦手な保育教諭からは、街のピアノ教室に通うためのレッスン料の捻出が難しいこと、園児の顔を見ながらピアノを弾くことが難しいこと、保育者養成校のピアノの授業時間が短すぎたことの3つがあげられた。子どもの顔を見ながら演奏することについては、ピアノが得意な保育士からも同様の発言がみられた。また、保育者養成校のピアノの授業は、現場の保育には役に立たないと述べられた。保育者養成校のピアノの授業に関しては、保育者養成校の教員からも、多くの楽譜が読めない学生が入学してくる現状と、より多くの曲を指導したいが時間がないこと、バイエルなどの教則本の指導をするが、保育現場で使用されないために無駄な部分も多いと感じていることが述べられた。また、保育者を指導する街のピアノ指導者からは、保育現場で使用される楽譜の問題点が指摘された。

第2節 第2調査の目的と調査協力者と結果

第1調査の結果をうけ、第2調査では現役保育者に対するピアノレッスン料の無償化の検討と、現場で行われている保育ピアノの具体的な内容を知ることの2つを目的に調査を実施した。

現役保育者に対するピアノレッスン料の無償化に関しては、企業内教育の視点からのアプローチとして Off-JT (Off the Job Training) の活用が考えられた。Off-JTとは、国の助成金を利用し、業務を離れて教育目的で行われる訓練をさす。調査は、2013年度から継続して Off-JT を活用している民間保育施設経営者（女性・40代）にインタビューを依頼した。その結果、Off-JTの結果は、保育現場で必要なスキルが獲得されただけでなく、受講者のその後の勤務態度にも影響を与えていると回答された。しかし、Off-JTにかかる助成金申請の複雑さ、訓練後に離職する者の存在、訓練にかかる時間の確保が難しさ、スキルアップ後に正規職員への転向を望まない

者の存在など、Off-JTが必ずしも園のメリットにつながらない具体例も示された。

現場の保育ピアノの具体的な内容では、第1調査の協力者である2名の現役保育者に勤務する保育施設の保育ピアノの内容と楽譜について、インタビュー調査を依頼した。

その結果、保育現場では、ピアノ演奏を伴う「季節の歌」の歌唱指導や振り付け指導が設定保育に組み込まれ、それらが年間数十曲にも及ぶ例が示された。また、保育現場で使用される楽譜については、先に使用した者が指番号や階名をたくさん書きこんでいたり、楽譜そのものの痛みが激しかったりするなど、使用しにくい例がかなり存在することがあきらかにされた。

第3節 これまでの調査のまとめ

現役保育者に対するピアノ学習の無償化に関しては、企業内教育の視点からOff-JTの活用の可能性が考えられた。しかし、実際に活用には行政や雇用の問題と深くかかわっていることから、さらに深く長期的な検討が必要であると考えられた。

保育ピアノに関しては、多くの「季節の曲」が歌唱指導や振り付け指導を伴う保育内容として位置づけられていた。このことから保育ピアノが、園児の顔を見ながらピアノを演奏することを中心にしていると考えられる。なお、園児の顔を見ながら演奏することは、保育所保育指針²や幼稚園指導要領³の音楽表現領域のねらい（園児が季節の曲に興味をもち、楽しく歌うこと）にも即している。さらに調査結果から、保育者は自分が弾きやすいように楽譜を改変する必要性も考えられた。

第2章 保育ピアノの学習プログラム

これまでの調査結果から、現役保育者には「園児の顔を見ながらピアノを演奏すること」と、「演奏しやすいように楽譜を改変すること」の2つの保育ピアノのスキルが必要であることがあきらかにされた。そこでこの章では、それらのスキルを獲得するための学習プログラムを提案する。

第1節 学習プログラムの目的

「園児の顔を見ながら演奏するスキル」を身につけるためには、一般的なピアノ練習とは異なる訓練が必要である。また「演奏しやすいように楽譜を

「改変するスキル」を身につけるためには、楽典の基礎やコード進行などの専門知識の学習が必要である。これら2つのスキルを獲得するために、ピアノが苦手な保育者は、より多くの練習時間を有することは言うまでもない。

しかし、周知のように保育業務は激務である。また、多くの保育者は基本的に1日8時間のローテーション勤務のため生活スケジュールが立てにくく、勤務時間外にイベントの準備や園だよりを作成することも多い。これらの理由から、ピアノに学習に費やす時間が十分確保ができるとはいえない。

そこで筆者は、設定保育のなかで、季節の歌が数回に分けて歌唱指導に活用されることに着目した。例えば、設定保育の導入期では、園児に曲への興味をもたせることがねらいであるため、ピアノ演奏はあまり必要ではない。このように保育者を対象にした設定保育の流れに沿った学習プログラムを構築し、そのなかに「園児の顔を見ながらピアノを演奏すること」と、「演奏しやすいように楽譜を改変すること」の2点を組み込むことができるならば、保育者は、園児を保育しながら独学で保育ピアノに必要な2つのスキルを獲得し、かつピアノの上達が望めるのではないかと考えたのである。

第2節 学習プログラムの具体例

第1項 歌唱指導

次の図表1は、「季節の歌」の歌唱指導の学習プログラム例である。導入、担い歌い（にないうたい）、アインザッツ、一斉唱の順に進行する。担い歌いとは、指導者のあとにまねをして園児が歌うことをさす。アインザッツとは音の出だしを表す音楽用語で、保育ピアノにおいては、歌詞の出だしを早めに園児に伝えることで、スムーズに歌えるように促すことをさす。縦の項目「園児のねらい」は、園児が目標とする学習内容を記載している。「準備」は、事前に準備しておく具体的な内容を示す。「保育内容」は保育者の学習目標を表し、「ピアノ」は具体的な保育ピアノの演奏内容を示している。

図表1 学習プログラム（1）歌唱指導

	1：導入	2：担い歌い	3：アインザッツ	4：一斉唱
ねらい	歌に興味をもたせる	歌詞を覚えさせる	リズムに合わせて歌わせる	大きな声で楽しく歌わせる
準備	楽譜の編曲 右手でピアノを弾きながら歌詞が歌えるようにしておく	楽譜の編曲 両手奏の練習	楽譜の編曲 両手奏でのアインザッツの練習	両手奏の練習 次曲の準備
保育内容	園児の顔を見ながら歌詞をゆっくりとねいに歌って聞かせる	歌詞を正しく歌うことができているかどうか、園児の顔を見ながら、歌詞を区切って模唱させる	歌詞が歌えているか、園児の顔を見ながらアインザッツで歌わせる	元気な声で楽しく歌っているかどうか園児の顔を見ながら一緒に歌う
ピアノ	右手奏で歌詞を歌う	右手奏で歌詞を小節や文節ごとに区切って演奏する	アインザッツを入れながらゆっくり両手で演奏する	適切な速さで、両手で演奏する

この学習プログラムでは、保育ピアノに必要な2つのスキルのうち、「園児の顔を見ながら演奏すること」は、導入から課題終了まで続けられる。そのため保育者は、わざわざ園児の顔をみるための練習をしなくとも、自然と園児の顔を見ながら演奏する癖を身につけることができる。また、「演奏しやすいように楽譜を編曲すること」は、課題曲決定後すぐに開始される。具体的には楽譜の見にくいところや弾きにくい箇所を見直して、演奏しやすいように書き直す作業をいう。その後は楽譜に改変を加えながら、徐々に両手でゆっくり演奏できるようにすればよいであろう。なお、学習プログラムの中でもっとも難易度が高い演奏技法は、3回めのアインザッツである。園児の顔を見て次の歌詞の出だしを伝えながらピアノを演奏することは、ピアノが得意な保育者でも簡単なことではない。しかし、アインザッツを用いた歌唱指導は、園児に全体的な楽曲の流れを教える際に、もっとも適していると

思われる。保育者は、アインザッツを用いた課題曲の練習を重点的に行うとよいであろう。

第2項 振りつけ指導

次の図表2は、「季節の歌」の振りつけ指導を行う際に、設定保育を組み込んだプログラムの例である。導入、振りつけ、アインザッツ、一斉唱の順に進行する。「2：振りつけ」では、園児に振りを覚えさせることがねらいであるため、ピアノ演奏はとくに必要としない。

図表2 学習プログラム（2）振りつけ指導

	1：導入	2：振りつけ	3：アインザッツ	4：一斉唱
ねらい	歌に興味をもたせる	振りを覚えさせる	リズムに合わせて振りをつけ歌わせる	大きな声で楽しく振りをつけて歌わせる
準備	楽譜の編曲 右手でピアノを弾きながら歌詞が歌えるようにしておく	楽譜の編曲 両手奏の練習	楽譜の編曲 両手奏とアインザッツの練習	両手奏の練習 次曲の準備
保育内容	園児の顔を見ながら右手でピアノを弾き、歌詞をゆっくりといねいに歌って聞かせる	振りをつけながら歌詞を区切って歌い、それを模唱させる	振りをつけて歌っているか、園児の顔を見ながら休符の箇所などアインザッツで歌わせる	楽しく歌っているかどうか園児の顔を見ながら一緒に歌う
ピアノ	右手奏で歌詞を歌う	とくになし	アインザッツを入れながらゆっくり両手で演奏する	適切な速さで、両手で演奏する

以上が、設定保育を組み込んだプログラムの具体案である。

なお、上記の学習プログラムは、導入から一斉唱の4段階に設定されているが、園のスケジュールや園児の様子から、これらの段階が組み合わせられた

り削減されたりすることは想定される。保育者には、むしろ段階にとらわれない柔軟な対応が求められる。

第3章 学習プログラムを使用した学習支援の可能性

本稿の保育ピアノ学習プログラムは、ピアノが苦手な現役保育者の独学を想定して作成された。しかし、他者からのアドバイスや学習支援を受けたほうがより効果的であることは言うまでもない。そこでこの章では、街のピアノ教室、Off-JT、保育者養成校の3つの学習支援の可能性について検討したい。

第1節 街のピアノ教室

街のピアノ教室は、音楽の専門知識をもつだけでなく、各地に散見され開講日や時間など柔軟に対応できる特徴をもつことから、多忙な保育者にとっては最適の学習の場といえるであろう。第1調査によると、街のピアノ教室では、保育者に対し、楽譜の改変に関する指導は行われていたが、演奏面では楽譜を見ながらしっかりと間違わずにピアノを弾くことを目的としており、子どもの顔を見ながら演奏することにはまったく触れられていなかった。多忙な保育者にとって、街のピアノ教室は保育ピアノのスキルを身につけるための最適な学習の場であるにもかかわらず、現場で役立つピアノ指導が行われていないことは残念なことである。このような矛盾が起こる原因は、ピアノ指導者の多くが音楽大学出身者であり、保育者としての勤務経験をもたないことにも一因があるであろう。なお保育ピアノの学習支援には、保育の知識や経験をもつピアノ指導者が望ましい。しかし、そのような指導者をみつけることは容易ではない。そこで、今後は本稿の学習プログラムの適用性があきらかにされたならば、ピアノが苦手な保育者の支援を行うことができる「保育ピアノ指導者」の養成が考えられる。

第2節 Off-JT

保育ピアノ指導者の養成が可能ならば、助成金を活用してかれらをOff-JT訓練として保育施設に派遣することも考えられる。第2調査では、Off-JTのデメリットとして、助成金申請の複雑さ、訓練後に離職する者の存在、訓練にかかる時間の確保が難しさ、スキルアップ後に正規職員への転向を望まない者の存在の4つがあげられた。訓練にかかる時間の確保の難しさ

は、保育現場に指導者を派遣することで、ある程度軽減できると思われる。また、保育ピアノ指導者の派遣にかかる助成金の申請をこちらが代行できるならば、申請の複雑さの問題も解決できるであろう。なお、残された2つの問題点については具体的な対応策が未定である。しかし、「無料でピアノ指導を受けることができる保育施設」という特徴が、新たな雇用を生み出す可能性を考えることができる。

第3節 保育者養成校

本稿の学習プログラムはピアノが苦手な現役保育者を対象にして考案されたものである。しかし、これを保育者養成校で活用することができるならば、学生時代に保育に必要な2つのピアノスキルを獲得することが期待されると思われた。なぜなら、第1調査では、保育者養成校の教員が、学校でのピアノ実技の授業は現場の保育に即していないと考えていることがあきらかにされたからである。ところが、子どもの顔を見ながらピアノを演奏することについては、半世紀も前に滝本裕造の研究例がのこされている⁴。また、CiNii (NII 学術情報ナビゲータ) を「保育者養成校 ピアノ」で検索したところ、182件の論文がヒットした。例えば、保育ピアノに必要な2つのスキルのうち、園児の顔を見ながら演奏することについては、2019年に福田由紀子らとその必要性を論じている⁵。さらに演奏しやすいように楽譜を改変することについては、同年に矢内俣子らが、保育者養成校における楽典の指導が不十分であることをあげている⁶。このように、保育者養成校における保育ピアノのあり方については、長きにわたり現在も多くの研究が行われている。しかし、保育者が独学で保育ピアノに必要なスキルを獲得する学習法や設定保育の流れにそったピアノ学習法についてはあまり研究されていないと思われた。

そこで最後に、指導者養成校に対して、本稿の学習プログラムをもとにした授業を提案したい。具体的には5人程度の学生が1グループになり、保育者役と園児役に分かれて交代制で学習プログラムを実行するアクティブ・ラーニングである。この授業の特徴は、保育ピアノに必要な2つのスキルを網羅すると思われる。その理由のひとつは、「園児の顔を見ながらピアノを演奏すること」が授業内で体験できることである。また「演奏しやすいように楽譜を編曲すること」に関しては、グループ内で情報交換されることで楽典の知識を豊かにし、楽譜を編曲することへの自発性や自主性が育まれることが予想されるからである。

おわりに

本稿は、ピアノが苦手な現役保育者に対し、企業内教育の視点と保育現場に則したピアノ学習内容について検討した。その結果、助成金を活用した Off-JT の活用と、保育ピアノには「園児の顔を見ながら演奏すること」と、「演奏しやすいように楽譜を改変すること」の2つのスキルが必要であることがあきらかにされた。そこで本稿では、保育をしながら独学でこの2つのスキルを獲得することができる「保育ピアノの学習プログラム」を提示した。そして現役保育者への学習支援として Off-JT を活用した保育ピアノ指導者の派遣と保育者養成校でのアクティブ・ラーニングを提案した。

しかしこれらの提案は、効果を期待するにとどまる。なぜなら学習プログラムの効果については、新型コロナウイルスの影響で実践されていないからである。したがって、学習プログラムに実践研究を行うことが、今後の課題である。

注記・参考文献

-
- ¹ 三上香子「保育ピアノ学習者の現状と効果的なピアノ指導（1）—現役保育者、保育者養成校の教員、街のピアノ指導者への調査を中心に—」社会教育学研究 vol. 51, 2020年2月, 1-6。三上香子「保育ピアノ学習者の現状と効果的なピアノ指導（2）：企業内教育の可能性と保育現場に則したピアノ学習内容の考察」社会教育学研究 vol. 52, 2020年8月, 1-6。
 - ² 厚生労働省が保育所に対し保育の内容に関する事項及びこれに関する運営等に関する事項を示したもの。
 - ³ 文部科学省が幼稚園に対し、教育課程の基準を示したもの。
 - ⁴ 三上香子「滝本裕造のピアノの基礎について」（公財）音楽文化創造、音楽文化の創造第75号、2016年、32-35。
 - ⁵ 福田由紀子・渡邊洋子「保育者養成課程における音楽実技（ピアノ）指導法『白鷗大学教育学部論集』13(2)、49-67、2019年。
 - ⁶ 矢内倅子・酒井国作「保育士・教員養成課程における楽典指導Ⅱ：音楽Ⅰのピアノ表現を深めるために」『東邦学誌』48(2)、2019年。